

めぐみイエス・キリスト教会

2024年6月16日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第711号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.43 詩篇第136篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌202「一度死にしわれをも」 p. 302

【使徒信条・主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主の御前に」

【聖書朗読】 ルカの福音書5章33節～39節(新約p. 119)

【礼拝説教】 《新しい皮袋》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書5章33節～39節)

5:33 また彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

5:34 イエスは彼らに言われた。「花婿が一緒にいるのに、花婿に付き添う友人たちに断食させることが、あなたがたにできますか。」

5:35 しかし、やがて時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」

5:36 イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。「だれも、新しい衣から布切れを引き裂いて、古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんなことをすれば、その新しい衣を裂くことになり、新しい衣から取った布切れも古い衣には合いません。」

5:37 まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を裂き、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。

5:38 新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなければなりません。

5:39 まただれも、古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物が良い』と言います。」

●ポイント1.「共観福音書における平行記事」から

※マタイの福音書9章14節「ヨハネの弟子たち」 (新約p.16上段)

9:14 それから、ヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、「私たちとパリサイ人はたびたび断食をしているのに、なぜあなたの弟子たちは断食をしないのですか」と言った。

●ポイント2.「旧訳聖書に書かれた断食の命令」とは？

※レビ記16章29節～31節「年に一度の贖い」 (旧約p.207下段)

16:29 次のことは、あなたがたにとって永遠の掟となる。第七の月の十日には、あなたがたは自らを戒めなければならない。この国に生まれた者も、あなたがたの中に寄留している者も、いかなる仕事もしてはならない。

16:30 この日は、あなたがたをきよめようと、あなたがたのために宥めが行われるからである。あなたがたは主の前ですべての罪からきよくなる。

16:31 これがあなたがたの全き休みのための安息日であり、あなたがたは自らを戒める。これは永遠の掟である。

●ポイント3.「新しい皮袋」とは？

※エレミヤ書31章33節「新しい契約」 (旧約p.1351下段)

31:33 これらの日の後に、私がイスラエルの家と結ぶ契約はこうである。(主の言葉)私は、私の律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。私は彼らの神となり、彼らは私の民となる。

◎先週の礼拝メッセージ【取税人レビの召命】

《カペナウムには、ローマ軍の駐屯所があり、取税所が設けられていました。主イエスは取税所に座っているレビという取税人に目を留められたのです。「私について来なさい。」

するとレビは、すべてを捨てて立ち上がり、主に従いました。取税人が、その持ち場を離れることは、その職を放棄することになります。マルコは彼のことを、「アルパヨの子レビ」と書き記しています。それから主イエスは、レビの家の食卓に招かれました。実は、この食卓には、もう一人の使徒となる人物が参加していたのです。それが、「アルパヨの子ヤコブ」です。彼は、レビの弟です。なんと、十二使徒の中には、3組の兄弟が存在していたことになります。さて、パリサイ人たちや律法学者たちが、主の弟子たちに向かって文句を言いました。

「なぜあなたがたは、取税人たちや罪人たちと一緒に食べたり飲んだりするのですか。」その声を聞いた主イエスは彼らに答えます。

「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人です。私が来たのは、正しい人ではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためです。」と。

ここで、主が言われた「正しい人」とは、自分たちは正しいと思っているパリサイ人や律法学者たちを指しています。

取税人は同胞のユダヤ人からは忌み嫌われていました。それ故、各都市の取税人同志の仲間意識は、非常に高かったと思われれます。

よって、カペナウムの取税人の頭レビとその弟ヤコブが、職を放棄して、ナザレのイエスに従ったことは、瞬く間に取税人の世界に広まったのです。そのうわさは、すぐにもエリコにまで届きました。

そして、エリコにも、主イエスと出会う取税人がいました。それが、ザアカイなのです。彼も、主イエスの恵みによって、救われます。彼は、その後、エルサレム教会の一員になったとも考えられます。》

お知らせ

※次回は6月23日(日)は午前10時から通常通りに行ないます。また、6月30日(日)第五主日は特別メッセージとなります。ご期待下さい。